

山正ニュース

2015年12月号(通巻79号)

< 山正ネットワーク >

- ・本 社 ☎ <058>271-4468 岐阜県岐阜市市橋4-5-15
- ・広域資材肥料部 ☎ <058>271-4468 (本社内)
- ・岐阜営業所 ☎ <058>271-4466 (本社内)
- ・可児営業所 ☎ <0574>62-5228 岐阜県可児市川合345-1
- ・富山営業所 ☎ <0766>55-3882 富山県射水市大江207-1
- ・飛騨営業所 ☎ <0577>72-4866 岐阜県高山市国府町村山857-2
- ・愛知事務所 ☎ <0568>68-7430 愛知県小牧市久保一色町南2-181
- ・山正HPアドレス <http://www.yamasyou.com/>

§ 1 “飛騨コシヒカリ”を区分上場へ

～わが国では20年ぶりに別立てでの取引、
「特A」の食味を生かした有利な販売戦略の展開に期待！～

今年産米の取引から、飛騨地区産コシヒカリの銘柄区分が新設されることになった。これは、全農岐阜県本部が県産コシヒカリの区分を変更し岐阜県枠とは別立ての飛騨「コシヒカリ」として区分上場するもので、米価の下落傾向が続いている中、有利販売が期待できる久々の明るいニュースとなっている。

平成26年まで岐阜「コシヒカリ」の銘柄で販売されてきた県産コシヒカリに、平成27年産から新たに飛騨「コシヒカリ」の銘柄区分が設定されることになった。今後県産コシヒカリは岐阜「コシヒカリ」と飛騨「コシヒカリ」の二本仕立てで販売されることになる(右の表参照)。

なお、県内で地区を分けて米を販売できる銘柄区分が新設されるのは現在の食糧法が始まった平成7年に新潟(魚沼が別立て)、翌年に福島(会津など3地区が別立て)および三重(伊賀が別立て)になって以来ほぼ20年ぶりのことである。

岐阜県産コシヒカリ銘柄上場区分	
～平成26	平成27～
岐阜「コシヒカリ」	岐阜「コシヒカリ」
	飛騨「コシヒカリ」*

*高山市、飛騨市、大野郡、下呂市産のコシヒカリ

今回飛騨「コシヒカリ」が区分上場されることになったのは、地元で根強い人気を得ていることに加え、昨年には日本穀物検定協会の食味ランキングで「特A」を獲得するなど、食味面の高い評価も追い風となって安定した販路が見込めると判断されたことが背景となっている。

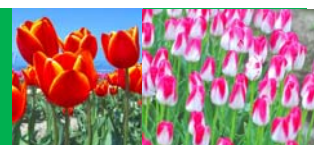
全農岐阜が同県内で集荷を見込んでいるコシヒカリ約1万トンのうち飛騨地区での集荷は約3,000トン程度で、その量は決して多くないが、27年産の農家に支払う概算金が60^千当たり1万2500円(前年比2,800円高)と、新潟・一般「コシヒカリ」に次ぐ高水準に設定されるなど、すでに区分上場に伴う具体的な効果も現れている。

今後は全農に販売が委託された飛騨「コシヒカリ」3,000トンのうち半分は県内や名古屋市などのコメ卸に販売され、残る1,200トンはJA飛騨が買戻し、JAこめ流通センターで精米・袋詰めして飛騨地区のスーパーやAコープなどに出荷されるとのことだが、地元スーパーでは飛騨「コシヒカリ」をメイン商品に5^千1,700円前後の高価格帯での販売が予定されている。

20年前に新潟「コシヒカリ」から別立てで上場された魚沼「コシヒカリ」が高値を記録し、その後もブランド価値を保ち続けているが、今回の飛騨「コシヒカリ」の銘柄区分の設定もより高い価格帯での取引に大きなインパクトを与えるものと思われる。飛騨「コシヒカリ」はその生産量から、魚沼や他の産地のように全国展開を図るものではないが、地元の消費者をがっちり押さえながら高価格帯での安定販売につなげようとする注目すべき動きと言える。加えて、飛騨「コシヒカリ」が飛騨地区全体のネームバリューをより一層高めることにも大きく寄与するものと思われる。(本文中の数値情報は9月18日付日本農業新聞、9月24日付日本のコメ市場;米穀データバンク、9月29日付日本農業新聞e農netなどを参考にした)。



株式会社山正は、農薬・肥料・園芸ハウス・農業資材等の販売や、それに伴う農地・緑地・街路樹等のメンテナンス業務を通じ、地域農業や地域の環境緑地化への貢献を目指しています。



§ 2 弊社初の“八角ワイドハウス”施工

～富山アルペン村で3棟が竣工、
観光いちご園として稼働始まる！～

富山アルペン村から受注した八角ワイドハウスが9月上旬に完成し、引き渡しが終わって現在はハウス内でいちごの栽培が始まっている。アルペン村は中部山岳国立公園・立山の入り口（立山町）にあり、多くの観光客が立ち寄る立山への中継地点。同村では、観光いちご園として多くの観光客の入り込みを期待しているほか、収穫したものの一部は直売所での販売も予定している。イチゴ栽培システムも弊社が納入したものである。なお、八角ワイドハウスは富山では初、北陸では福井に次いで2例目であり、今後の導入についての呼び水になることが期待されている。

八角ワイドハウスは、従来の円形 42.7 パイプの主骨を八角に加工することで「大間口」化、「高軒高」化および「高機能」化を図り、鉄骨ハウス並みの機能をもたせたもので、3年保障もついている。メーカー（渡辺パイプ）によれば、素材を見直し、強度を下げずに軽量化に成功したとのことであるが、42.7 ハウスに比べて間口が広がっていること（9m→10.8m）、軒高が高くなっていること（2.0m→3m）およびスパンの幅が広がっていること（90cm→1m）などから、今後は強風や積雪下での管理には細心の注意を払うことが大切と思われる。

八角ワイドハウスの主な特徴

●圧倒的な大空間！

新開発八角パイプを用いることで間口10.8m、軒高3.0mの圧倒的な大空間を実現！

主骨には八角42.7のパイプ

八角48.6ジョイント

間口10.8m

軒高2.5~3m

八角ワイドハウス 仕様

間口	10.8m(固定)
軒高	2.5m-2.7m-3.0m
主骨	八角42.7×1.6 タフ
スパン	1000mm
タイバー	八角42.7×1.6 タフ
奥行直管	八角42.7×1.6 タフ
対応設備	カーテン装置(2層対応) ツマカンワイド 天窗(ウイングエース)

渡辺パイプのチラシから抜粋

竣工したハウス



栽培中のいちご

- § 1 “飛騨コシヒカリ”を区分上場へ
～わが国で20年ぶりに別立てでの取引、
「特A」の食味を生かした有利な販売戦略の展開に期待！～（名畑技術顧問）……………1ページ
- § 2 弊社初の“八角ワイドハウス”施工
～富山アルペン村で3棟が竣工、
観光いちご園として稼働始まる！～（名畑技術顧問）……………2ページ